



グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの SDGsへの取組みと第5次環境基本計画への期待

2017年 9月27日

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ)



SDGsの推進に向けたGCNJの主な活動の歩み

2015

- 8月 ● 2015年度会員向けSDGs実態調査実施
- 9月 ● 「2030アジェンダ」採択に際して共同声明を発表
- 12月 ● 年次シンポジウム『SDGs達成とプラチナ社会』
- 2月 ● IGESとの協働『SDGコンパス』邦訳版作成
- 3月 ● 市民社会との協働、超党派SDGs勉強会実施
- 3月 ● 『SDGコンパス』お披露目記念セミナー開催
- 5月 ● UNGCとともに、G7環境大臣会合（於富山）に参加
- 5月 ● G7伊勢志摩サミットに向けた政府への要望提出

2016

- 6月 ● SDGsインディケーターセミナー開催
- 6月 ● Post2015分科会改めSDGs分科会へ
- 7月 ● SDGsタスクフォース2016（2015年発足、2017年継続中）
- 8月ー ● 環境省ステークホルダーミーティング参加（計3回）
- 9月 ● 2016年度会員向けSDGs実態調査実施（2年目）
- 9月ー ● SDGs推進本部円卓会議参加（計3回）

2017

- 1月 ● 年次シンポジウム『経営を変える2つのキーワード:SDGsとESG』
- 2月 ● KPMGとの協働『SDG Industry Matrix』邦訳版作成
- 3月 ● 『SDG Industry Matrix』お披露目記念シンポジウム
- 4月 ● IGESとの協働『動き出したSDGsとビジネス』発行
- 9月 ● 2017年度会員向けSDGs実態調査実施（3年目）



『SDG Compass』
各企業の事業にSDGs
がもたらす影響を解説、
持続可能性を企業の戦
略の中心に据えるため
のツールと知識を提供



『SDG Industry Matrix』
関連する多くのイニシア
チブや企業事例を紹介す
る産業別SDG手引き（食
品・飲料・消費財、製造業、
金融サービス、エネルギ
ー・天然資源・化学産業）



『動き出したSDGsと
ビジネス』
日本企業のSDGs取組
み実態調査レポート。
*IGESと協働

<http://ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=208>





学習

- PRIパートナーシップのあり方
- 様々な企業プラットフォームの取り組み
- 国連GC発行物、ローカル SDGsパイオニア対策
- 多様な分科会との共有

協働

- 政府：推進本部（円卓会議）、環境省（ステークホルダーズMtg）
- アカデミア：企業SDGs調査など研究の協働
- NGO：SDGs市民社会ネットワークとの連携
- 国連機関：国連広報センターを窓口に関連機関との協働
- 投資家：ESG投資に向けた研究・協働

発信

- シンポジウムなどイベントの開催
- 国連GCのドキュメントを日本語化
- GCNJのSDGsポータルサイトの構築
- 署名企業での社内浸透ツール制作

国連GC「SDG Local Network Action Plan」作成要請への対応

- マルチステークホルダーの関与とプロセス
- 公共政策との連動
- パートナーシップの推進と連携
- ローカルパイオニアの推薦



実態調査結果：インパクトの大きい目標

- バリューチェーンも含め最も影響を与えるSDGとして、2015年5位だった**目標13（気候変動へのアクション）**が2016年は1位に
- **業種別にはインパクトの大きい目標はばらつきがみられる**

図1:経済・環境・社会的インパクトが最も大きい目標

<Q:SDGs各目標について、貴社・貴団体(バリューチェーンも含む)の事業が及ぼす経済・環境・社会面への影響を教えてください>

目標1, 2, 10, 14, 16は下位に並ぶ

	2015		2016	
1位	目標9	61	目標13	66
2位	目標3	54	目標7	62
3位	目標12	53	目標12	60
4位	目標7	51	目標9	52
5位	目標13	44	目標8	49

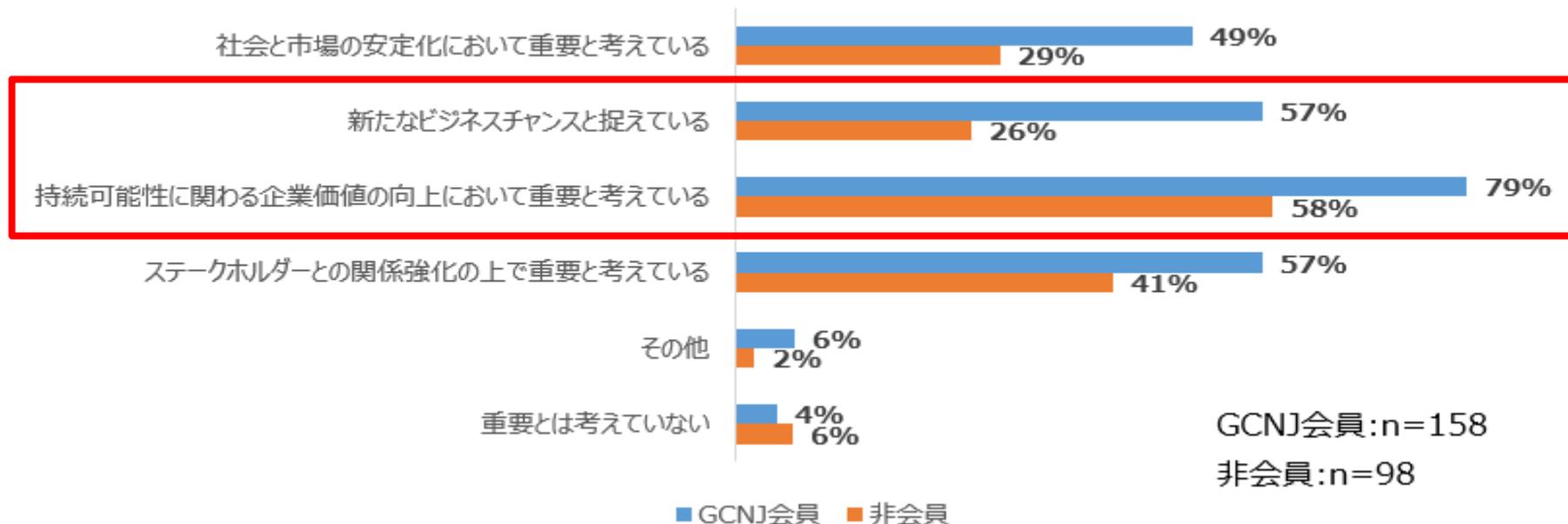
図2:上位10業種における経済・環境・社会的インパクトが最も大きい目標

業種	Top1	Top2	Top3	Top4	Top5	Top5	Top7	Top8	Top9	Top9	Top9
上位10	電気機器	サービス業	化学	卸売業・小売業	その他製品	金融・保険業	機械	食料品	建設業	情報・通信業	ガラス・土石製品
1位	目標3	目標9	目標13	目標7	目標8	目標4	目標9	目標6	目標11	目標3	目標13
2位	目標7	目標12	目標12	目標8	目標7	目標5	目標7	目標3	目標13	目標4	目標6
3位	目標9	目標3	目標3	目標9	目標12	目標7	目標3	目標12	目標7	目標7	目標7



- GCNJ会員と非会員におけるSDGsの認識には顕著な差がみられる
 - ・「新たなビジネスチャンス」（会員57%vs非会員26%）
 - ・「持続可能性に関わる企業価値の向上において重要」（会員79%vs非会員58%）

図3:SDGsの認識：<Q:貴社・団体内では、SDGsをどのように認識していますか？>



*2017年CSR Europeの調査結果は、「企業価値」79%、「ビジネスチャンス」52%、「安定化（リスクマネジメント）」30%。

https://www.csreurope.org/sites/default/files/FS_WP_Sustainable%20Development%20Goals_05112017_RD_0.pdf

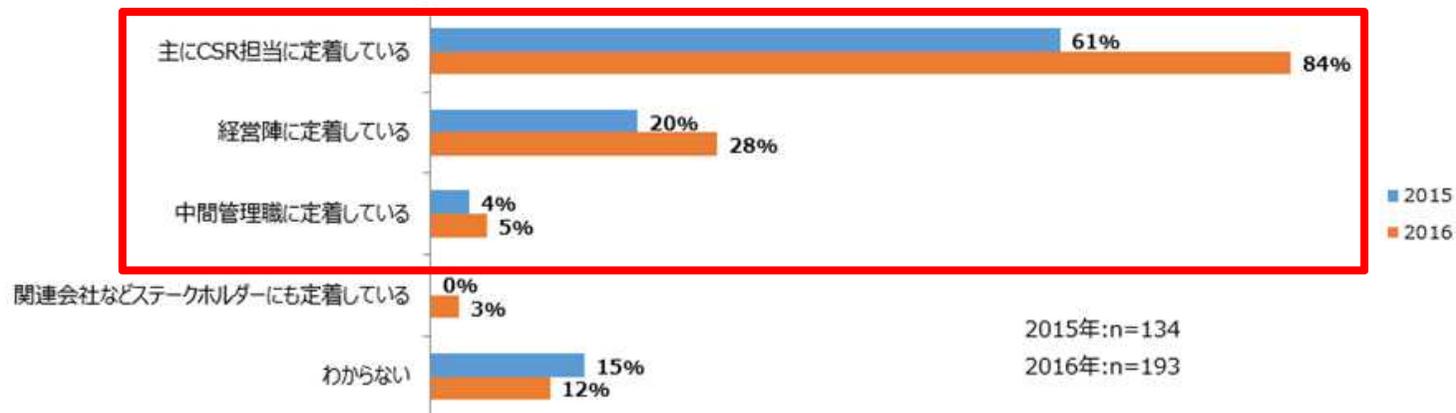


実態調査結果：組織におけるSDGsの認知度

- 昨年から、「主にCSR担当に定着している」が61%から84%に急増。CSR部門での認知度が向上
- 一方、経営陣・中間管理職の認知度の低さが目立つ。欧米の経営者の認知度は日本の約二倍

図4:SDGsの認知度(2015年vs2016年)* :

<Q:貴社・貴団体でのSDGs認知度について、あてはまる状況を選択して下さい(複数選択)>



*2017年CSR Europeの調査結果は、経営陣への定着は53%、中間管理職の認知度は11%。

https://www.csreurope.org/sites/default/files/FS_WP_Sustainable%20Development%200Goals_05112017_RD_0.pdf

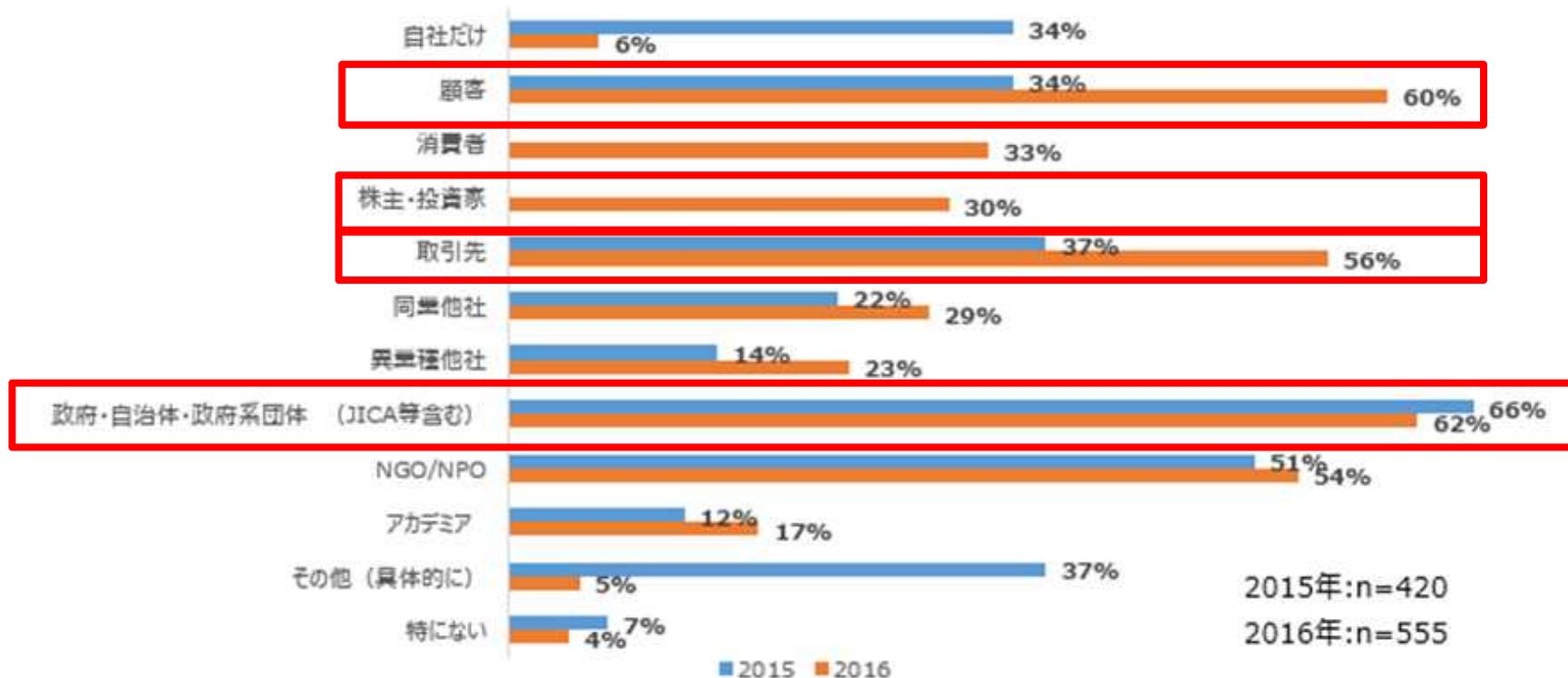


実態調査結果：重要なパートナー

- **最も重要なパートナーは政府**
- 昨年度から「自社」で取り組むという回答が大幅に減った反面、「顧客」「取引先」「消費者」「株主・投資家」という回答が急増

図5:SDGs推進における重要なパートナー

<Q:自社でSDGsを推進するために重要なパートナーはどこだと考えますか？(複数選択)>



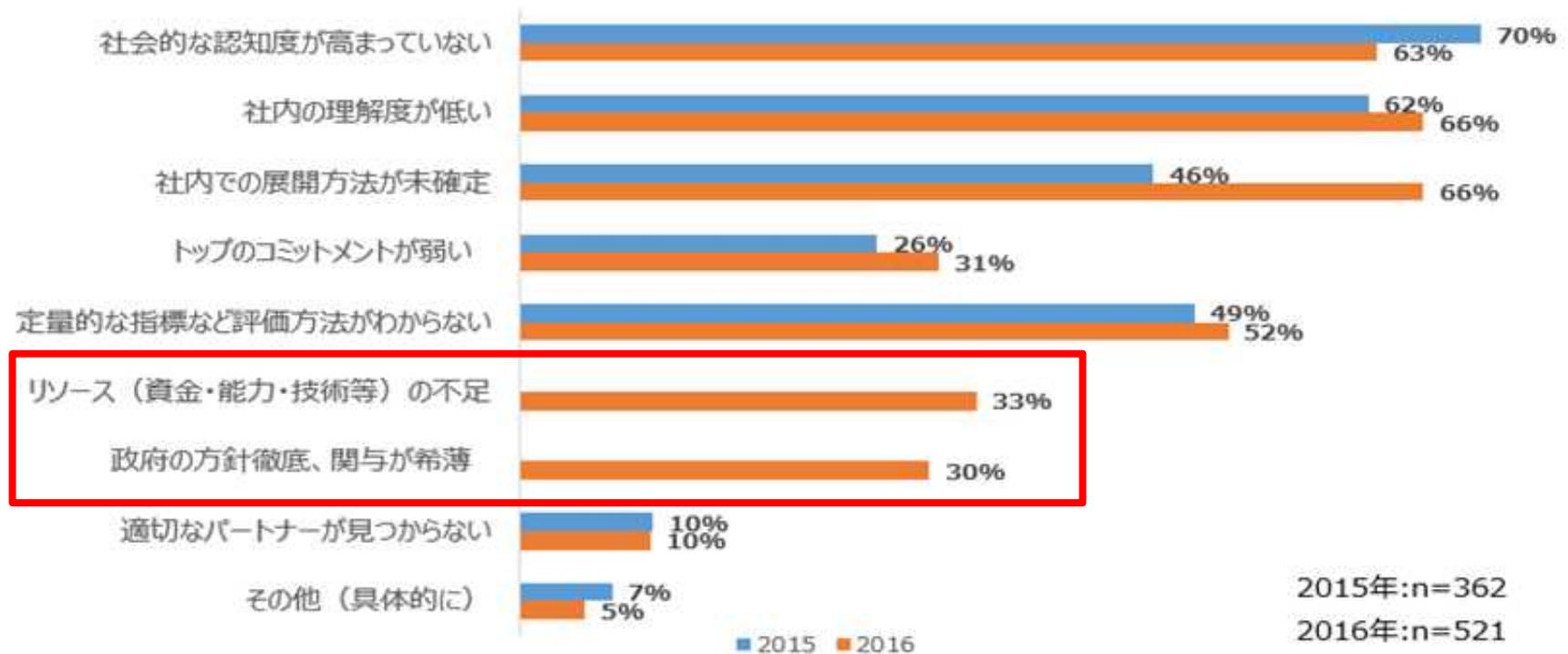


実態調査結果：課題

- 2015年から、社内の理解度が低いという課題は相変わらず残るものの、「**リソースの不足**」「**政府の方針、関与が希薄**」という回答が新たにみられる

図6:SDGs推進における課題

<Q:SDGsに取り組む場合にどのようなことが課題となっていますか？（複数選択）>





第5次環境基本計画への期待

◆ 企業支援のフレームワークや政策の再編・強化

- 環境面も含めSDGsを推進するために、各省庁ごとに個別に実施している企業向けの施策を省庁横断で連携させ、実効性の高い推進体制の構築
- 日本企業が海外(とくに途上国)に環境技術、ソリューションを展開する際の包括的なサポート (パートナーシップ等)
- 他国グローバル企業に対抗する政府発信型プレゼンス向上、世界に先んじたルールセッティングによる競争優位性 (日本の強み) 保持
- 環境配慮型ビジネスのさらなる認知・支援 (インセンティブ付与、努力レベルの可視化)、長期的ビジョン策定・開示の奨励

◆ 教育・啓発

- 国内外問わず、あらゆる階層への環境付加価値の重要性の認識レベルの向上
- 若年世代へのさらなるSDGs教育・啓発を通じ、将来世代の利益を真摯に考える社会の実現 (create the world they want as well)
- 海洋汚染など、海洋国家でありながら忘れがちな課題の再認識



Appendix



国連グローバル・コンパクト（UNGC）発足の背景

背景

経済がグローバル化する中、**富の不平等**が深刻化し、
それに起因する**紛争・貧困**が発生することで、世界的に**格差が拡大**



- ✓1999年 コフィー・アナン元国連事務総長がダボス会議で提唱
- ✓2000年 NY国連本部で正式に発足

『世界共通の理念と市場の力を結びつける道を探りましょう。民間企業のもつ創造力を結集し、弱い立場にある人々の願いや未来世代の必要に応えていこうではありませんか。』

- ✓2007年 潘基文前国連事務総長がグローバル・コンパクトの継続支持を表明
- ✓2017年 António Guterres現国連事務総長がグローバル・コンパクトの継続支持を表明

特徴

- 国連が「国家」という旧来の仕組みではなく、民間企業/団体の主体的なイニシアチブ（取り組み・参画/関与）を求めてきた
- 一方、企業の側もグローバル化・多国籍企業化・社会的存在感の増大につれ、従来は公権力領域であったグローバル課題への関心・関与意欲が高まる

「人の顔をしたグローバルリゼーション」の要請は色褪せていない



United Nations Global Compact 国連グローバル・コンパクト

*コンパクト=誓い・盟約
(小型という意味ではない)

戦後世界が合意形成してきた共通価値観を平易な10原則にまとめ直し、
これを内外のステークホルダーに浸透させる活動を通して、
「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組み

UNGC10原則



人権

- 企業は、
1. 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
 2. 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである



労働

- 企業は、
3. 結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
 4. あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
 5. 児童労働の実効的な廃止を支持し、
 6. 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである



環境

- 企業は、
7. 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
 8. 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
 9. 環境にやさしい技術の開発と普及を奨励すべきである



腐敗防止

- 企業は、
10. 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

GC10原則の依拠するところ

- 世界人権宣言 (1948年)
- 労働における基本的原則および権利に関するILO宣言 (1998年)
- 環境と開発に関するリオ宣言 (1992年)
- 腐敗防止に関する国連条約 (2003年)



① Blueprint for SDG Leadership

CROSS-CUTTING



THEMATIC

UNGC PRINCIPLES:
7, 8, 9



UNGC PRINCIPLES:
1, 2, 6, 7, 8, 9



UNGC PRINCIPLES:
1, 2, 6



UNGC PRINCIPLES:
1, 2, 4, 5, 6



UNGC PRINCIPLES:
1, 2, 3, 4, 5, 6



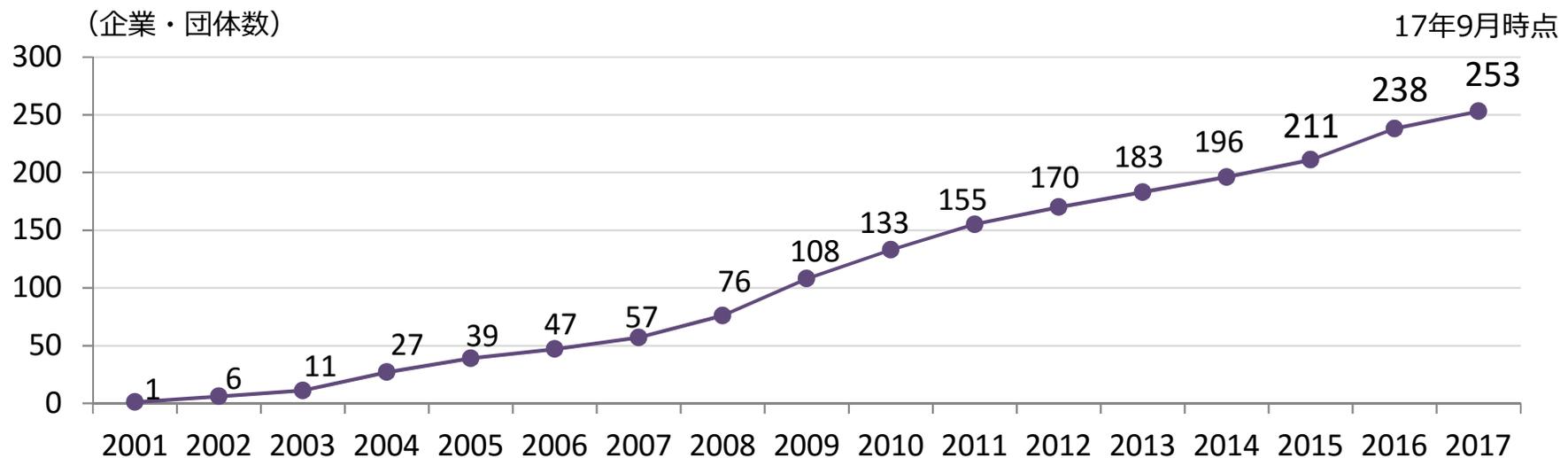
Global Opportunity Explorer



1. 歴史

- 2001年3月 キックマンが日本署名第1号
- 2003年12月 国連広報センターがジャパン・ネットワーク（任意団体）を創設
 - ✓ 署名団体数 11
- 2008年4月 参加企業主体の団体として国連広報センターから独立
 - ✓ 署名団体数 76
- 2011年10月 一般社団法人化
 - ✓ 会員数 155
- 2015年7月 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ名称変更
- 2017年9月現在
 - ✓ 会員数 253

2. 会員数の推移





● 分科会活動（2017年度）

企業の実務者が他社の実践や学識経験者から学び、CSRの考え方や取り組みについて情報の交換・共有ができる活動の場。毎月1回または2か月に1回開催。

* 各分科会の活動内容紹介ページ：<http://www.ungcnj.org/activities/session/2016.html>

	分科会名	参加企業 (社・団体)	参加者 (人)
1	サプライチェーン	53	91
2	環境経営	60	97
3	GCの社内浸透研究	15	19
4	レポート研究	56	82
5	関西	43	91
6	ヒューマンライツデューデリジェンス	36	56
7	人権教育	23	32
8	明日を共創る	14	16
9	腐敗防止	27	40
10	防災・減災 (DRR)	23	33
11	SDGs	86	130+
12	SRI/ESG	67	121
13	CSV	36	54
14	WEPs	43	74



事例・情報共有



グループディスカッション



有識者講演



ラーニングフォーラムで活動報告



GCNJの主な活動:日中韓ラウンドテーブル

- 学生・アカデミア・ビジネス3領域×3カ国の合同シンポジウム
- 草の根交流としての意義
- 2017年：第9回日中韓ラウンドテーブルを東京で実施
(8月21-23日@東京・品川プリンスホテル)
テーマ「SDGsで世界を変える～東アジアの果たす役割～」



[2017 Global Compact China-Japan-Korea Roundtable Conference]

